

## イネドロオイムシは適期に防除しましょう！

近年、イネドロオイムシ幼虫（図1）の食害による被害（図2）が、県中北部を中心に広範囲で発生しており、山沿いでは多発ほ場も見られます。

イネドロオイムシ成虫（図3）の侵入時期は5月下旬、産卵盛期は6月上旬ですが、本年はすでに5月下旬現在、イネドロオイムシ幼虫が発生しているほ場も見られます。

防除適期は産卵盛期～ふ化初期の6月上～中旬です。昨年多発したほ場では、稲株をよく観察し、卵塊（図4）が多く見られる、あるいはすでに幼虫の発生が見られ、今後の被害が懸念される場合には表1を参考に防除を行いましょう。



図1 イネドロオイムシ幼虫

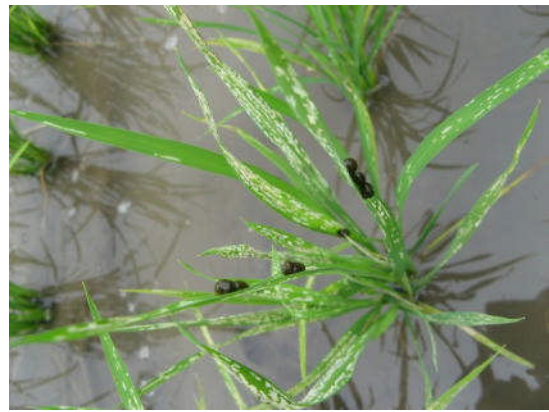


図2 幼虫による被害



図3 イネドロオイムシ成虫



図4 卵塊

表1 イネドロオイムシに登録のある主な薬剤（平成24年6月4日現在）

薬剤名	希釈倍数又は使用量	使用時期／使用回数
アルバリン粒剤	3 kg / 10a	収穫7日前まで / 3回以内
スタークル粒剤	3 kg / 10a	収穫7日前まで / 3回以内
シクロパック粒剤	小包装(パック)10個(600g) / 10a	収穫60日前まで / 2回以内
スミチオン乳剤※	1000倍	収穫21日前まで / 2回以内
トレボン乳剤※	1000～2000倍	収穫21日前まで / 3回以内

※幼虫による加害が始まっている場合

詳しくは農業環境指導センター(<http://www.jppn.ne.jp/tochigi/>)までお問い合わせください。

Tel(028)626-3086 Fax(028)626-3012